

高岡のアルミニウム

【産地の特色】

高岡のアルミニウム産業は、本市の伝統産業である銅器・鉄器の鋳物技術をもとに、昭和初期に鍋・釜などの日用品を製造し、近県及び中京方面に出荷したのが始まりである。戦後の経済復興と日本経済の成長からアルミ需要が拡大し、本市では豊富で低廉な電力と水を背景に、アルミ業界は急成長を遂げた。

現在は、住宅用・ビル用建材を中心に、エクステリア製品、家庭用厨房品、機械車両部品などの生産に加え、スクラップ材の回収・分別や2次合金メーカーなどの循環型アルミ産業に関わる企業が集積している。中でもアルミ建材分野においては、本市の中核的産業を成すとともに、全国的な生産規模を誇り、富山県におけるリーディング産業の地位を確立している。

また、富山大学が高岡キャンパスに軽金属材料共同研究棟を整備・開所したほか、富山循環経済モデル創成にむけた産学官民共創拠点と銘打ち、リサイクルアルミの研究に取り組んでおり、高岡を中心に県内全域において産学官連携によるアルミニウム分野の研究開発の機運が高まりつつある。

【動向】

令和4年度のアルミニウム製品の出荷額は、約3,906億で対令和2年度比22.4%の増加となった。内訳としては「ビル用建材」が約793億で対令和2年度比30.7%上昇、「住宅用建材」が約785億で対令和2年度比16.9%増加、「エクステリア」は約755億円で対令和2年度比39.8%増加した。令和4年度は、行動制限が緩和され、経済活動も徐々に再開されたことや昨今の物価高の影響が売上高を押し上げたものと推察される。

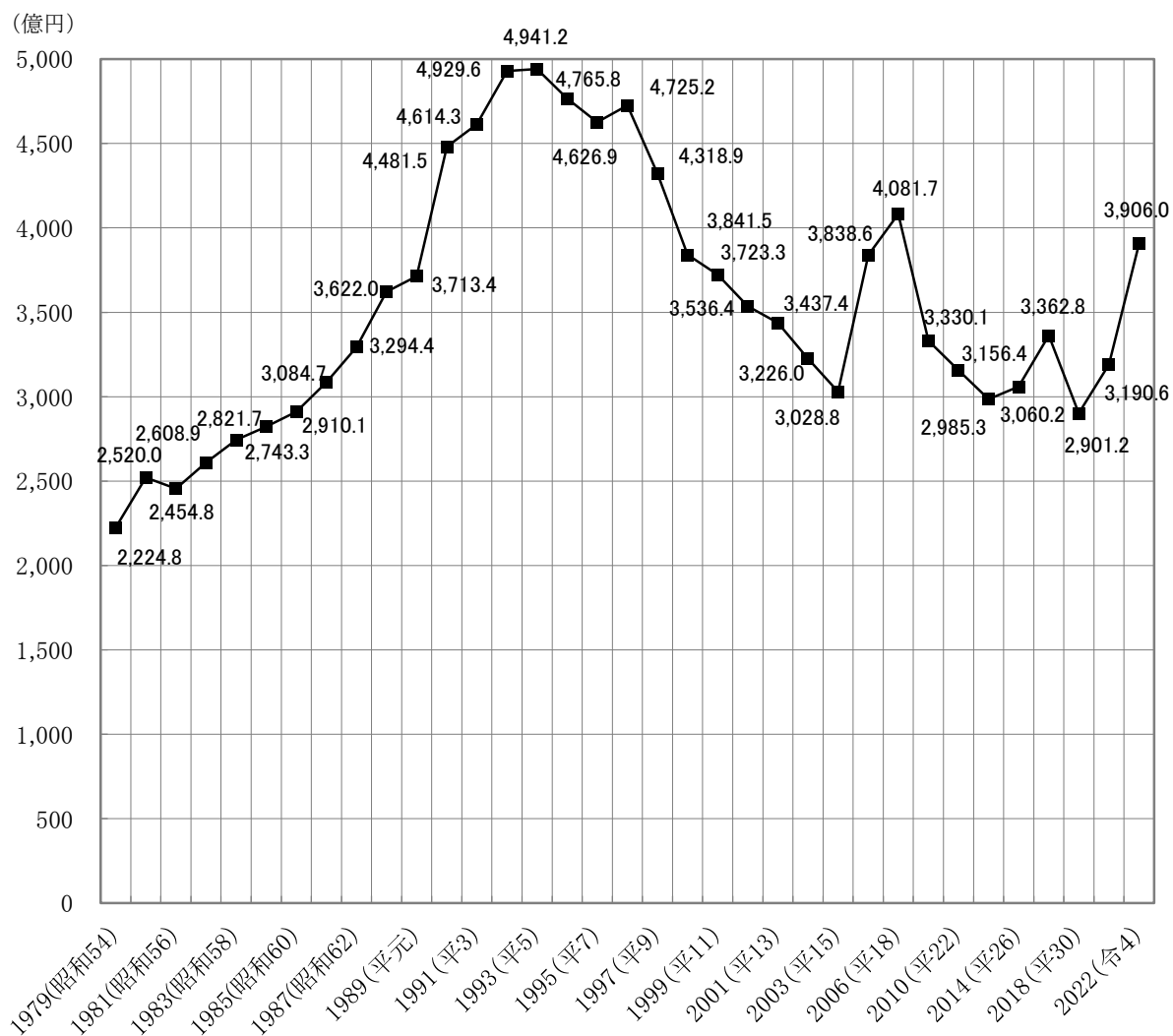
材料工学の進展によって様々なアルミニウム合金の材料開発やレーザ加工・接合などの新技術開発が進み、従来の建材中心のアルミ需要のみならず、自動車や産業機械・インフラ構造材・医療機器等の需要が創出され、非建材分野の構成割合が増加したものと考えられる。

また、これからはカーボンニュートラルの実現に向け、電気の缶詰とも称されるアルミニウムの脱炭素化が喫緊の課題となっており、より一層、アルミニウムのリサイクルが重要視されることが予想される。

高岡のアルミニウム

【出荷額の推移】(単位:億円、%)

年	出荷額	前回比
2014(平26)	3,060.2	—
2016(平28)	3,362.8	109.9
2018(平30)	2,901.2	86.3
2020(令2)	3,190.6	110.0
2022(令4)	3,906.0	122.4



高岡のアルミニウム

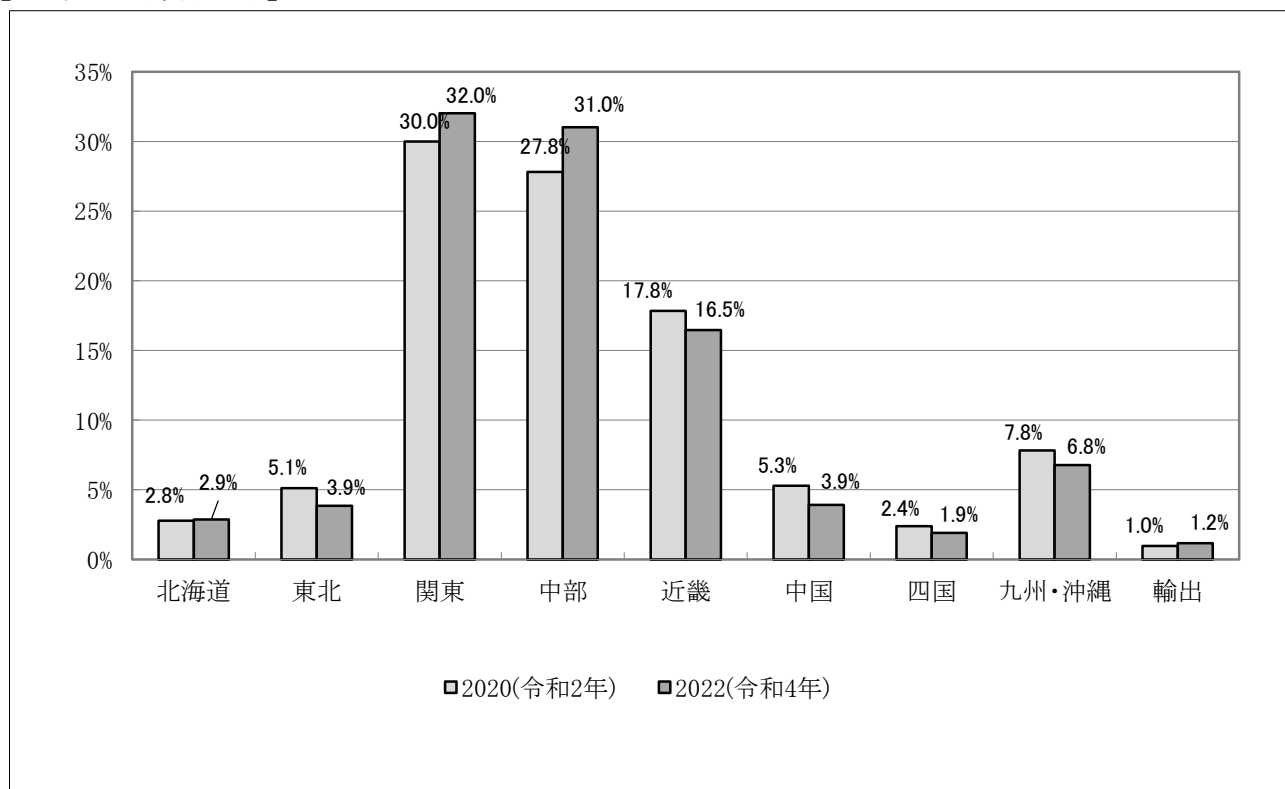
【品種別出荷額及び割合の推移】

(単位:千円)

品種	2022(令和4年)		2020(令和2年)		2018(平成30年)		2016(平成28年)		2014(平成26年)	
	出荷額	構成比	出荷額	構成比	出荷額	構成比	出荷額	構成比	出荷額	構成比
ビル用建材	79,374,416	20.3%	60,725,076	19.0%	66,249,725	22.8%	69,959,943	20.8%	74,530,792	24.4%
住宅用建材	78,509,671	20.1%	67,156,842	21.0%	66,346,360	22.9%	81,086,889	24.1%	81,468,039	26.6%
エクステリア	75,507,216	19.3%	54,009,057	16.9%	59,983,637	20.7%	54,490,326	16.2%	54,847,097	17.9%
日用・厨房品	2,563,519	0.7%	2,566,115	0.8%	4,715,253	1.6%	4,717,258	1.4%	3,924,916	1.3%
自動車・鉄道関連	57,549,188	14.7%	—	—	—	—	—	—	—	—
機械部品	534,971	0.1%	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	96,562,739	24.7%	134,599,682	42.2%	92,828,023	32.0%	126,028,328	37.5%	91,252,049	29.8%
計	390,601,720	100.0%	319,056,773	100.0%	290,122,998	100.0%	336,282,744	100.0%	306,022,893	100.0%

※令和4年調査から自動車・鉄道関連、機械部品を追加(令和2年以前はその他に含む。)

【地域別出荷割合】



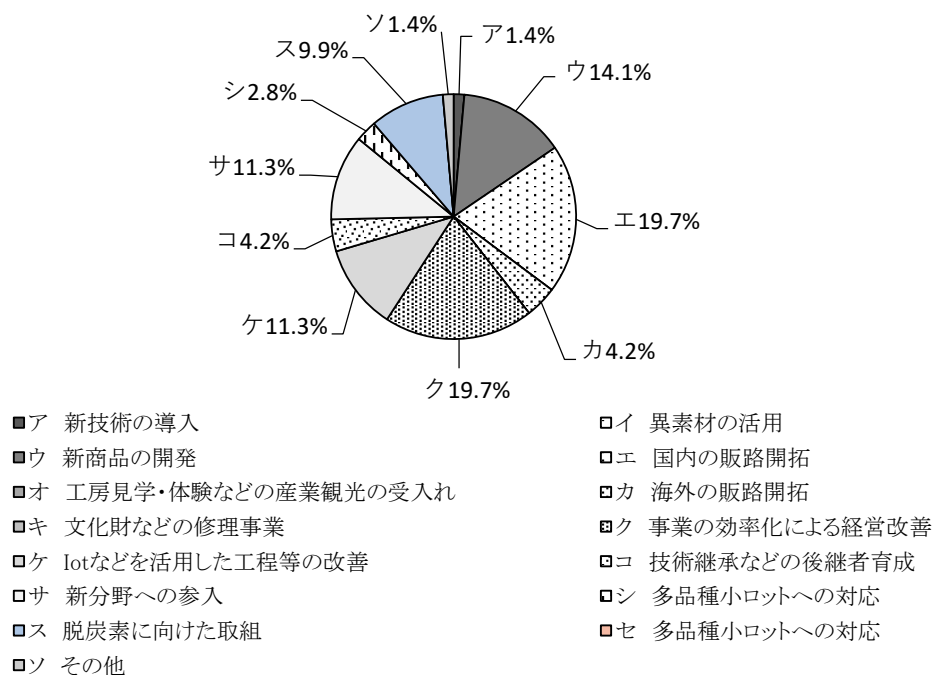
【事業所数と従事者数】

項目	2022(令和4)	前年対比	2020(令和2)	前年対比	2018(平成30)	前年対比	2016(平成28)	前年対比
事業所数	24	100%	24	86%	28	112.0%	25	—
従事者数	8,104	95%	8,503	99%	8,571	101.5%	8,444	—

高岡のアルミニウム

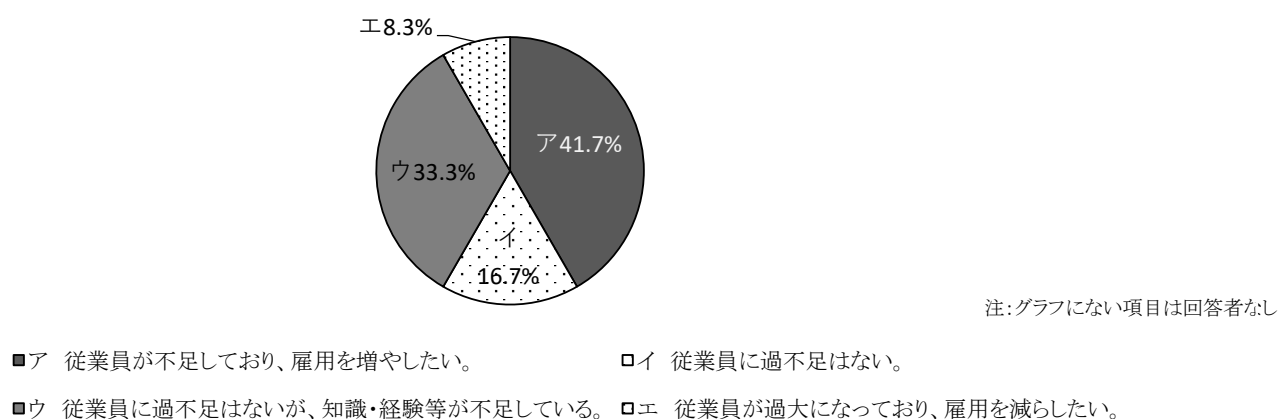
【意識調査について】

1 今後の方向性



結果としては、「国内の販路開拓(19.7%)」、「事業の効率化による経営改善(19.7%)」が最多となり、「新商品の開発(14.1%)」が続いた。アルミニウム産業は、事業所あたりの規模が比較的大きく、事業の効率化は常に優先順位の高い経営課題と思われる。また、今回の調査で「脱炭素に向けた取組」を設けたところ、10%弱の回答があった。事業者においても、今後脱炭素に向けた取組が加速していくことを期待したい。

2 従業員の雇用実態(過不足感)について



結果としては、従業員に過不足はない(「従業員に過不足はない(16.7%)と「従業員に過不足はないが、知識・経験等が不足している(33.3%)」の合計)と答えた企業が半数を占めたが、「従業員が不足しており、雇用を増やしたい(41.7%)」と答えた企業も4割以上あった。本市の基幹産業のアルミニウム産業でも、昨今の人手不足の状況が読み取れる。